

# 令和3年度BSCフォローアップシート（年度末評価用）

病院(所属)名:小児保健医療センター

区分	シナリオ	戦略的目標	BSCの当初目標設定内容					年度末進捗状況		評価・今後の対応	
			業績評価指標	前年度実績	数値目標	数値目標実績	5段階評価	主なアクションプラン	アクションプラン実績		
顧客の視点	<p><b>診療体制の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>難治・慢性疾患児への質の高い医療サービス・全県型医療の提供</li> <li>政策医療の提供</li> <li>子どもから大人まで切れ目のない医療提供システムの構築</li> </ul> <p><b>在宅医療支援の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の医療機関等との連携強化</li> <li>NICU等の後方支援</li> <li>在宅療養の支援</li> </ul>	患者満足度の向上	今後も当院を受診したい人の割合	外来90% 入院91%	外来100% 入院100%	外来89.8% 入院100%	B A	1	・外来待ち時間の短縮 ・患者サービスの向上	[今後も当院を受診したい人の割合] 外来 90% → 89.8% △0.2ポイント 入院 91% → 100% +9ポイント	外来については、前年度並みとなったものの、入院は、9ポイント増加し、すべての患者の満足が得られた。引き続き、入院・外来とも、患者満足度向上に向けて取り組んでいく。
		入院治療の提供拡大	新規入院患者数	1,501人	2,805人	1,483人	D	2	・新規入院患者数の増加	[新規入院患者数 1,501人→1,483人 △18人]	令和3年8月からは、にじ病棟(40床)をコロナ病棟(16床)に転換したため、そら病棟(60床)を最大限稼働させ、医療の提供を行っている。新規入院患者は、にじ病棟をコロナ専用病棟としたため、一般病棟(そら病棟)で最大限入院治療を行ったものの前年に比べ18人減少した。今後もコロナ患者を受入れつつ、入院治療を推進し、新規入院患者の獲得を図る。
		慢性疾患患者の救急体制強化	時間外慢性疾患患者救急受入れ応需率(※患者受入件数/受入依頼件数)	100.0%	100.0%	100.0%	A	3	・救急受入れのための病床管理	・時間外患者受入件数…140件→179件 +39件 うち入院受入件数…62件→97件 +35件 ・受入依頼件数…140件→179件 +39件	受入依頼件数が前年度より27.9%増加したが、依頼のあったものは、すべて受け入れることができた。今後も可能な限りベッドコントロール等を行い、慢性疾患患者の救急体制強化に努める。
		地域医療機関等との連携強化	紹介率	54.0%	50.0%	52.1%	A	4-1	・びわ湖あさがおネットの利用登録に関する患者家族への説明および勧奨 ・びわ湖あさがおネットを活用した連携病院・診療所への患者情報の提供 ・広報紙やホームページ等を活用した広報の充実 ・新型コロナウイルス感染症対応支援	[紹介] ・患者数 …2,108人→2,251人 +143人 ・紹介率 …54.0%→52.1% △1.9ポイント [逆紹介] ・患者数 …2,284人→2,552人 +268人 ・逆紹介率…57.0%→57.5% +0.5ポイント	紹介率は、前年度に比べ1.9ポイント減少したものの、紹介率、逆紹介率とも数値目標は達成し、また紹介・逆紹介とも患者数は、前年度より増加した。今後も地域医療機関等と相互の情報共有による連携強化を図る。
		在宅療養の支援	平均在院日数	10.6日	9.5日	10.5日	B	5	・適切な診療および在院日数の設定	[平均在院日数 10.6日→10.5日 △0.1日] ・整形外科…20.2日→22.0日 +1.8日 ・小児科 … 8.5日→ 8.2日 △0.3日 ・眼科 … 2.1日→ 1.7日 △0.4日 ・耳鼻科 … 3.4日→ 3.2日 △0.2日 ・リハ科 …14.0日→ 7.5日 △6.5日	整形外科では、脊椎側彎症手術等の増加により在院日数が増加した、一方、小児科をはじめとするその他の診療科においては、在院日数が短縮していることから全体で0.1日減少した。今後も感染防止に努めながら、適切な入院治療による平均在院日数の短縮を図る。
財務の視点	<p><b>経営基盤の安定化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>病床利用率の向上</li> <li>財務管理の徹底</li> </ul>	病床利用率の向上	病床利用率	47.6%	73.0%	47.0%	C	6	・手術件数の増 ・計画的な検査・リハビリ入院の促進 ・レスパイト入院等の拡大 ・医師の確保 ・地域連携の強化 ・広報紙やホームページ等を活用した広報の充実	[病床利用率 47.6% → 47.0% △0.6ポイント] (手術件数…460件→441件 △19件) ・整形外科…254件→244件 △10件 ・耳鼻科 …104件→94件 △10件 ・その他 …103件→103件 ±0件	病床利用率については、新型コロナウイルス感染症の影響等により前年度に比べ0.6ポイント減少した。今後もコロナ患者を受入れつつ、高度な手術治療・検査入院の促進、レスパイト入院の応需などにより病床利用率の向上を図る。
		財務管理の徹底	経常収支比率	83.9%	92.5%	103.1%	A	7	・診療件数の増 ・診療費の確実な収納 ・診療材料等の見直し、選定による経費の削減	[経常収支比率 83.9%→103.1% +19.2ポイント] 収益 2,813,894千円→3,466,667千円 +652,773千円 △9.2% ・入院収益 1,322,727千円→1,175,642千円 △147,085千円 △11.1% ・外来収益 641,010千円→720,373千円 +79,363千円 +12.4% 費用 3,353,693千円→3,362,995千円 +9,302千円 +0.3% 差引収支 △539,799千円→+103,672千円 +643,471千円	経常収支は、コロナ病床確保補助金収入(588百万円)により、103百万円の黒字となったが、依然として厳しい経営状況であり、今後もコロナ患者を受入れつつ、入院治療を推進し、医療収益の確保を図るとともに、さらなる経費の削減に努める。入院収益の減は、本年度、高額医薬品(167百万円)の使用がなかったことによるものであり、実質は40百万円の増となった。一方、費用は、脊椎側彎症等の手術費用や感染対策費用の増により増加した。
内部プロセスの視点	<p><b>働きやすい職場環境の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員満足度の向上</li> <li>効率的な職場環境づくり</li> </ul>	効率的な職場環境づくり	職員一人あたりの時間外勤務時間数	15.5h	16.0h	17.7h	B	8	・院内会議、研修等の時間内開催 ・適正な労務管理 ・弾力的な人員配置 ・応援体制の構築 ・業務効率化のための設備システムの導入	[職員一人あたりの月平均時間数 15.5h → 17.7h +2.2h] 医師 (35.5h→33.8h △1.7h) 看護師 (11.6h→15.4h +3.8h) 医療技術 (14.4h→17.0h +2.6h) 事務等 (18.4h→20.5h +2.1h)	看護師の人員減やコロナ患者の時間外対応および院内感染防止対応に時間を要したため、時間外勤務時間は前年度より一人あたり月平均2.2時間増加した。今後も引き続き、コロナ患者の受入れや院内感染防止対策を行うが、弾力的な業務の配分等による適正な労務管理を行い、時間外勤務時間数の削減に努める。
		職員満足度の向上	現在の仕事に充実感や達成感を感じている職員の率(肯定的回答率)	86.2%	88.0%	82.3%	B	9	・職員提案の募集および採用 ・面接の実施 ・チーム医療・多職種連携の推進	(仕事に充実感や達成感を感じている職員の割合 86.2% → 82.3% △3.9ポイント) 医師 82.4%→83.3% +0.9% 看護師 81.2%→79.5% △1.7% 医療技術 93.2%→84.0% △9.2% 事務 87.0%→83.3% △3.7%	職員満足度は、日々変化するコロナ対応により先行き不透明な状況であったこと等から前年度より3.9ポイント減少した。今後も、職員が仕事に対し充実感や達成感を感じることができる職場づくりに努める。
学習と成長の視点	<p><b>専門的人材の確保・育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門的人材の確保</li> <li>研究活動への支援</li> </ul>	臨床研究活動への支援	論文発表数	21本	25本	12本	D	10	・補助数の増	[論文発表数 21本→12本] ・整形外科…5本→5本 ・小児科…11本→1本 ・耳鼻科…5本→5本 ・検査科…0本→1本	新型コロナウイルス感染症の影響により学会等の開催が見送られたことなどから論文の発表数が減少した。引き続き、研究活動を支援のうえ、専門医療技術および当センター認知度の向上を図るとともに、人材確保に繋げていく。